

2016年1月期(第56期) 第3四半期(2~10月) 決算説明会資料

2015年12月1日
菱洋エレクトロ株式会社

【東証一部 証券コード:8068】

<http://www.ryoyo.co.jp>

設立 : 1961年(昭和36年)2月27日

資本金 : 136億72百万円

代表者 : 代表取締役会長 小川 賢八郎
代表取締役社長 大内 孝好

従業員数 : 連結 512名 単体 460名
(15年10月末) ※グループ総人員 611名

事業内容 : ◇ 半導体/デバイスの販売
◇ ICT製品(HW/SW)の販売
◇ 組込み製品の販売
◇ 上記に関わる技術サポート
◇ 上記に関わる各種サービス

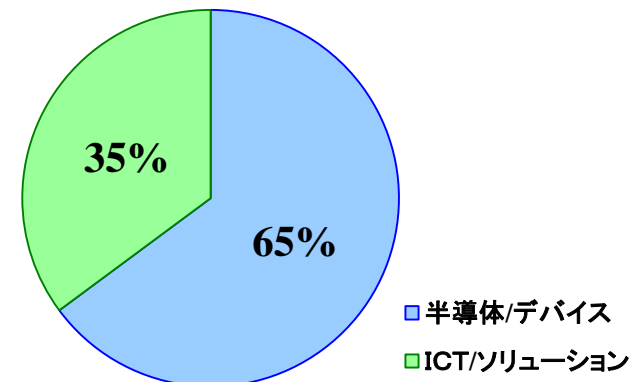
ISO 9001 / 14001 / 27001 :
国内全拠点(サテライトオフィスを除く)で取得

国内拠点 : 仙台、郡山、松本、高崎、大宮、
八王子、横浜、
名古屋、京都、大阪、福岡

海外拠点 : 大連、上海、深圳、香港、台北、
バンコク、クアラルンプール、
シンガポール、シリコンバレー

国内子会社 : リョーヨーセミコン、
リョーヨーセキュリティサービス

品目別売上構成 (16.1期/Q3累計)



2016年1月期 第3四半期累計期間の報告

P/L : 引き続き増収も、利益面はそれぞれ減益



(単位:億円, %)

	15.1期 (Q3累計)	16.1期 (Q3累計)	前期差	前期比	コメント
売上高	809	847	+37	+4.6%	前期比増収を維持
売上総利益 (率)	63.6 7.9%	56.3 6.7%	▲7.3	▲11.5%	Q3に在庫廃棄損および在庫評価損を計上
販管費	49.7	52.4	+2.7	+5.4%	人件費や増収に伴う物流費等が増加
営業利益 (率)	13.9 1.7%	3.9 0.5%	▲10.0	▲71.7%	上期着地時点では前期実績を30%超上回っていたが、売上総利益の減少により対前期比で減益に転じる。
営業外損益	2.8	3.0	+0.2	+5.8%	
経常利益 (率)	16.8 2.1%	6.9 0.8%	▲9.8	▲58.6%	
特別損益	0.9	1.3	+0.3	+34.4%	投資有価証券の売却損益、固定資産の評価損を計上
税引前利益	17.7	8.2	▲9.5	▲53.7%	
法人税等	6.4	3.0	▲3.4	▲53.4%	
四半期純利益 (率)	11.3 1.4%	5.2 0.6%	▲6.1	▲53.8%	

品目別売上高：半/デがICTのマイナスをカバー

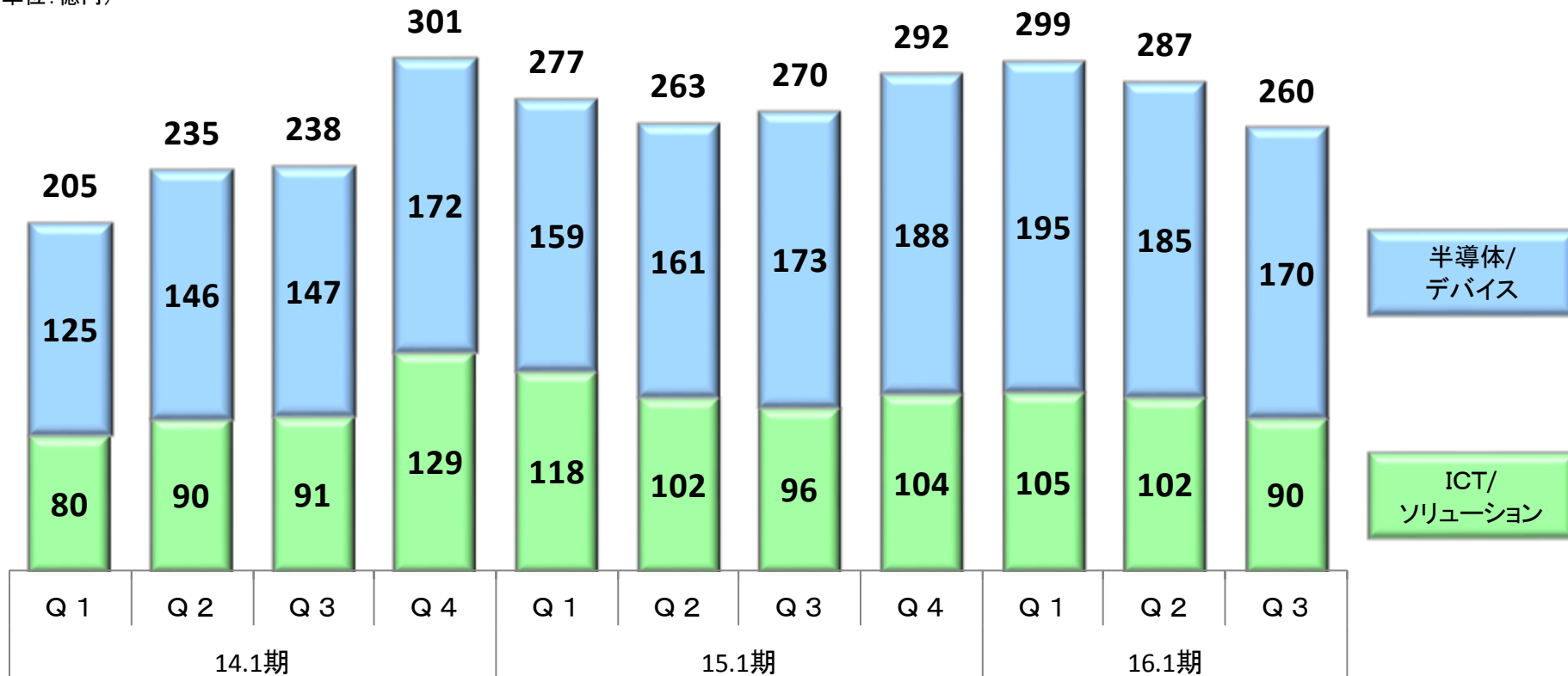


(単位: 億円, %)

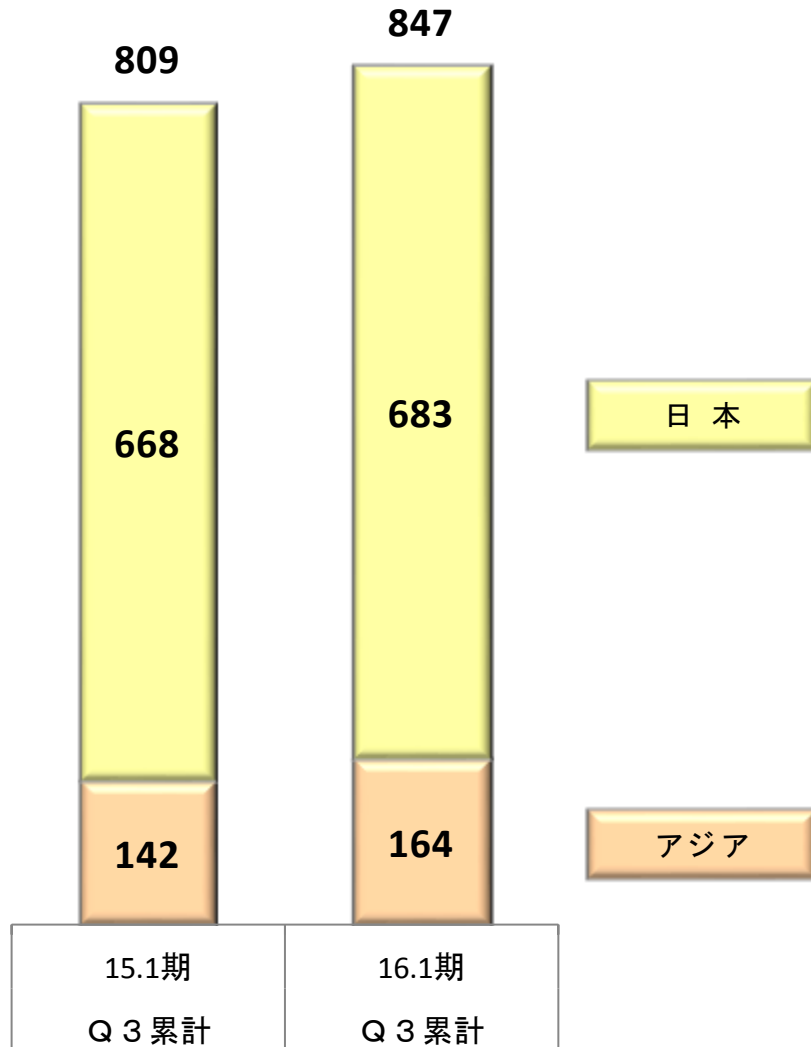
	15.1期 (Q3累計)	16.1期 (Q3累計)	前期差	前期比	コメント
総売上高	809	847	+37	+4.6%	
半導体/デバイス	494	549	+56	+11.3%	
用途別					
通信	87	123	+36	+41.7%	通信機器向け液晶の製造受託ビジネスが増加
デジタル家電/ その他家電	64	81	+16	+25.0%	テレビ向けを中心に増加
車載	28	29	+1	+3.9%	前期から大きな変動はなし
PC/周辺機器	163	156	▲8	▲4.7%	パソコン向けは前期比で減収となるも、 周辺機器向けは引き続き堅調持続
産業/その他	151	161	+10	+6.6%	中国市場向けの減速が懸念されたものの、 その影響については限定的であり、前期比増収
ICT/ソリューション	316	298	▲18	▲5.8%	
品目別					
PC/Server/Network	104	85	▲19	▲18.3%	注力していた大口のビジネスが不調
出力機器	47	53	+5	+11.7%	新規案件の立ち上がりが寄与
Software/組込み	165	160	▲5	▲2.9%	パソコン向けソフトウェアが減少

- 半導体 / デバイス：
今期の増収を牽引してきた通信機器向け液晶の製造受託ビジネスが減少
- ICT / ソリューション：
注力していた大型システム案件が不調

(単位: 億円)



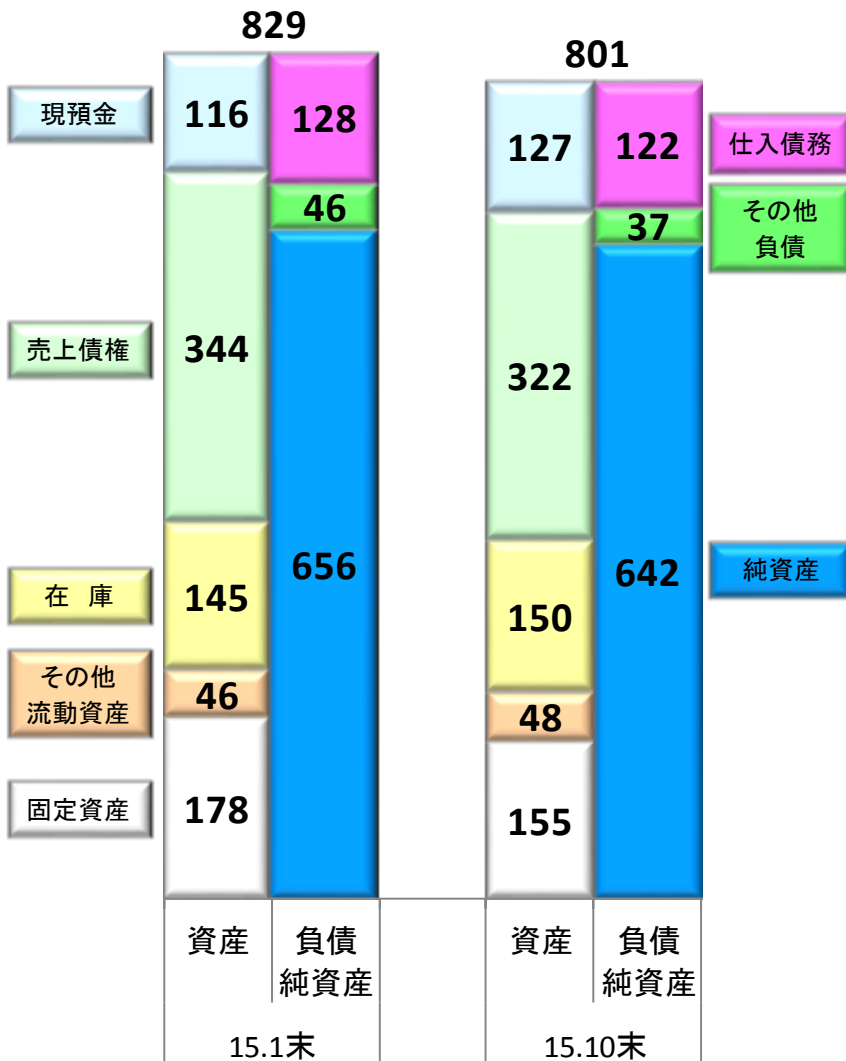
(単位: 億円)



**日本、アジアともに
前年同期比増収を達成**

- ▶ 日本 :
通信機器向け液晶が増加。
- ▶ アジア (シンガポール, 香港, 上海) :
テレビ向け半導体や通信機器向けの液晶が増加。

(単位: 億円)



引き続き、強固な財務状況を維持

- **売上債権** : 直近の売上水準に連動して減少。
- **固定資産** : 投資有価証券(ユーロ円債等)の償還が進む。
- **純資産** : 自己株式取得(60万株)を実施。
- **自己資本比率** : 80.0%

2016年1月期 通期の計画

Q3に一時的要因が重なり大幅減益
 ～通期計画を見直すも、Q4に関しては黒字化を見込む～

- **売上高：**
 当初の計画から見通しを引き下げるものの、前年比増収は確保
- **営業利益・経常利益・当期純利益：**
 Q3に在庫廃棄損 / 評価損、特別損失を計上し、通期計画を下方修正

(単位：億円，%)

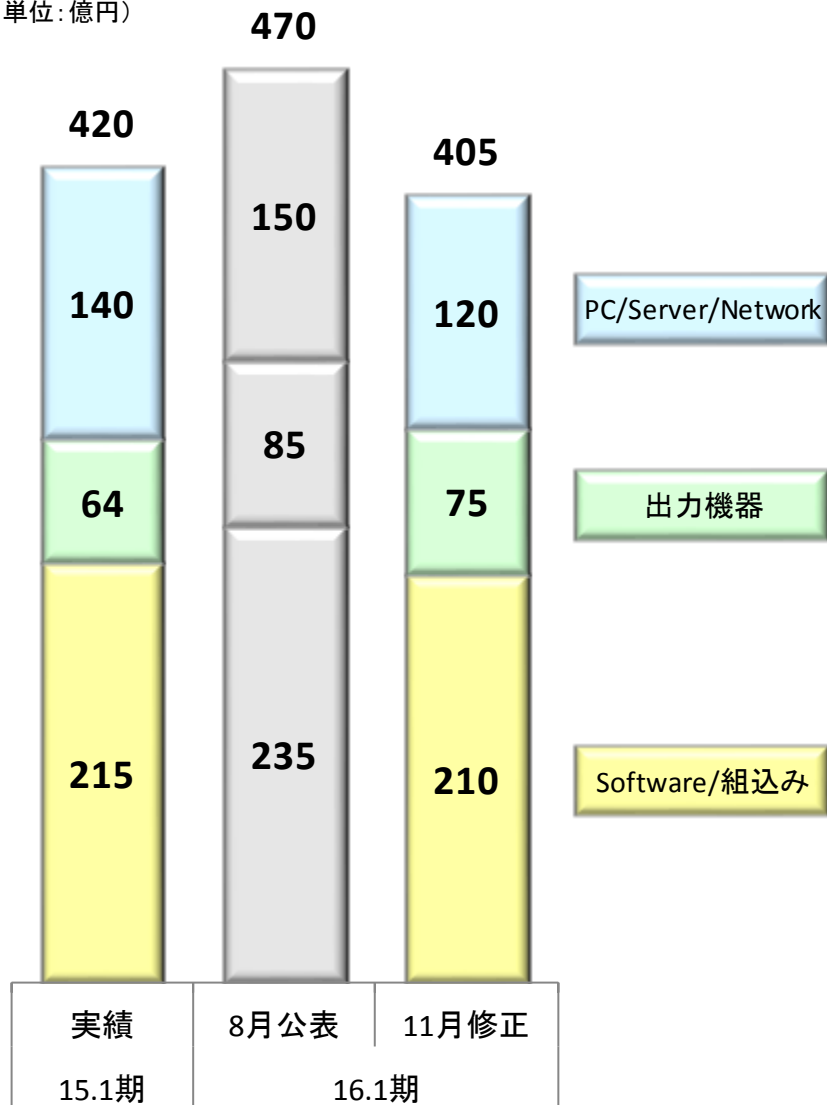
	15.1期 年間 (実績)	16.1期				年間 (修正計画)	期初計画	対期初計画		前期比
		上期 (実績)	Q3 (実績)	Q4 (差引)	下期 (差引)			修正額	修正率	
売上高	1,101	587	260	283	543	1,130	1,220	▲90	▲7.4%	+2.6%
売上総利益	88.0	46.2	10.1	20.2	30.3	76.5	98.0	▲21.5	▲21.9%	▲13.1%
(率)	8.0%	7.9%	3.9%	7.1%	5.6%	6.8%	8.0%			
販管費	67.5	35.0	17.3	18.6	36.0	71.0	73.0	▲2.0	▲2.7%	+5.2%
営業利益	20.5	11.2	▲7.3	1.6	▲5.7	5.5	25.0	▲19.5	▲78.0%	▲73.2%
(率)	1.9%	1.9%	—	0.6%	—	0.5%	2.0%			
経常利益	25.0	14.4	▲7.4	2.1	▲5.4	9.0	29.0	▲20.0	▲69.0%	▲64.0%
当期純利益	16.8	11.0	▲5.8	1.3	▲4.5	6.5	19.0	▲12.5	▲65.8%	▲61.4%
(率)	1.5%	1.9%	—	0.5%	—	0.6%	1.6%			
(ROE)	2.6%					1.0%	2.9%			



当初計画に対して
年間の見通しを▲25億円

- **通信：**
下期からの立ち上がりを見込んでいた一部案件の見通しを保守的に修正。
- **デジタル家電 / その他家電：**
テレビ向け中心に好調持続。
- **PC/周辺機器：**
8月時点で一旦見通しを引き上げたが、PC関連で一部生産調整の動き。
- **産業 / その他：**
中国経済の減速の影響が懸念されるも、Q3時点ではその影響は限定的。ただし、Q4以降の動向は依然不透明。

(単位: 億円)



当初計画に対して
年間の見通しを▲65億円

- PC/Server/Network :
上期の案件失注に加えて、
注力していた大型システム案件が不調。
- 出力機器 :
下期見込んでいた大型案件の計画縮小。
- Software/組込み :
8月時点で一旦見通しを引き上げたが、
PC関連で一部生産調整の動き。

➤ 株主還元方針：

当社は事業活動から得られた利益の配分を経営における重要事項の一つとして位置づけており、安定した経営基盤の維持ならびに今後の事業拡大に取り組む一方、財政状態や経営環境を勘案しながら株主還元を行っております。

16.1期以降の株主還元については、配当および自己株式取得により**当該年度の当期純利益に対する総還元性向100%を当面目指してまいります。**

		1株当たり配当金			配当性向	自己株式取得
		Q2末	期 末	年 間		
16.1期	(予想)	—	15円	30円	114.5%	未 定
	(実績)	15円	—	—	—	60万株
15.1期	(実績)	15円	15円	30円	44.9%	—

● 注意事項

本資料内の業績および将来に対する見通しは、
当社が発表時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、
実際の結果は経済環境やその他様々な要因より、
当初の見通しとは異なる可能性がありますことを予めご承知おきください。

— 本資料に関するお問い合わせ先 —

菱洋エレクトロ株式会社
経営戦略室 経営企画部

TEL : 03(3546)5088 E-mail : irmanager@ryoyo.co.jp